

校長室より

令和6年11月5日(火)

「プロとしての自覚」



SMBC日本シリーズ2024 (DeNA—ソフトバンク) が11月3日に幕を閉じ、今シーズンのプロ野球日本一の栄冠はDeNAに輝きました。

その第3戦(10月29日 みずほペイペイ)で印象に残る選手の言葉があったので紹介します。

それは、ソフトバンクの攻撃中のことでした。DeNA先発の東克樹投手あづまかつきが相手打者を2ストライクと追い込んだところで、球審に、ネット裏の観客席を指し、指笛を鳴らすポーズで「笛がうるさい」とアピールをしました。1度目は球審が場内アナウンスへ指示し、注意を促すアナウンスが流れたのですが、それでもまだ指笛が聞こえたのか、別の審判がネット裏に再度アナウンスするよう指示し、場内アナウンスで「お客さまにお願いいたします。投手が投げる間際の口笛などはご遠慮いただきますようお願いいたします」と具体的な形で伝えられたのです。

東投手は、この試合後、次のようにインタビューに答えています。

「ペイペイドームが指笛は禁止されていないので全然問題がないんですけど、ただ投げる瞬間、モーションに入ってからわざと吹く感じだったので、ただ、それだけはやめてほしいと。繊細すぎるという意見もあるかもわからないですけど、僕たちはこれが仕事で、人生をかけてやっているの。悪気がなかったかもしれないですけど、僕にとってはすごく気にしてしまいました。バックネットでやっていたと思うので、すごく聞こえる。禁止されていないので、駄目とは言えないですけど、ただタイミングというのは考えてほしいなど。投げる瞬間にやったりしてきていたので。僕たち1球1球が勝負の世界でやっている中で、そういうことはやめてほしい。」

プロ野球はもちろんのこと、プロの世界は大変厳しいものがあります。それが大舞台ともなれば、選手は全身全霊を込めてプレーしています。ピッチャーというポジションは体力以外にも強靱な精神力が求められます。その一瞬一瞬に集中する仕事をやってのけるのがプロ。東投手の「僕たちはこれが仕事で、人生をかけてやっている」という言葉はプロとしての自覚がとても表れています。生徒のみなさんも将来、こんな言葉が言えるような仕事に出会ってほしいですね。

